

## 中学生を対象としたマルチメディアを用いた授業

本研究では、中学生の発達をふまえ多様なメディアによる抽象表現の可能性を探る。今回は、マルチメディアを用い表現素材(色)への関心を高める教材を取り上げる。コンピュータを介してカメラ機能と色と言語を結びつける体験を表現の初歩的な授業実践ととらえる。以下大阪府下公立中学校での実践例二つを記載する。

### ipad アプリ「色彩ヘルパー」を用いた授業-(1)

大阪府下中学1年生 40人 5人グループ(各班2台×8グループ=16台使用)

#### 1. 混色「名前の知らない色、未知の色」の平塗り

活動—ワークシート「慣用色の名前」(A4)の20cm×15cmの枠内にポスターカラーの混色で着彩。  
一人2枚のワークシートを作成する。

#### 2. ipad アプリ「色彩ヘルパー」を使い色の名前(慣用色)を調べる。

色の名前の概説—慣用色とは固有色の一つで社会的利用・知名度が高いもののこと。赤、青、黄、白、黒などの基本色、色を数値化するなど体系化しすべての色を示すことができるようにした系統色とは異なり、使用する文化、社会の影響を受ける。和色名と外来色名がある。和色名は伝統色ともいわれ、日本の自然や植物に由来する名前が多い。

「色彩ヘルパー」の説明—本アプリはipadのカメラで色を感知し、慣用色名を表示する機能があり、和色名はひらがなまたは漢字、外来色はカタカナで表記される。光のあたり方やカメラの感知の具合により色名が変化するため、移し出されたipadの画面上のいろいろな部分(赤丸で表示)を選択し、興味のある名前を見つける。(タッチパネル機能)

活動—ワークシートに塗った色をカメラで映し、慣用色名を調べる。  
和色名、外来色のどちらかに○をつけ、調べた慣用色の名前を記入。



#### 3. 調べた色を発表。

活動—グループ毎に前に出て、一人ずつクラスの皆にワークシートを見せながら見つけた慣用色名を発表する。(板書・表1)

表1 発表された色

和色名	外来色
琥珀／藍色／うぐいす色／銀鼠／らくだ／古代紫／肉桂色／納戸色／黄茶／海松(みる)色／朽葉色／鳩羽色／錆浅葱／抹茶色／小麦色／勝色／利休鼠／松葉色／鉄色／刈安色／萌黄色／煤竹色／紺藍／茶鼠	シーグリーン／セルリアンブルー／コルク／ローズグレー／ワインレッド／ココアブラウン／アンバー／コーラルレッド／テラコッタ／スカイグレー／サックスブルー／ボトルグリーン／マリンブルー／カーキ／チャコールグレー／ネイビーブルー／パントアンバー／ブロンズ／スチールグレー／ストレートグレー

#### 4. まとめ

同じ色の名前でも色には幅がある。光のあたり方によって色は変わる。

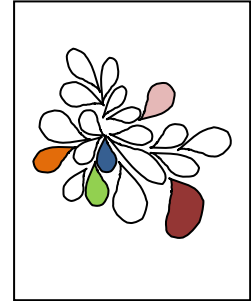
## ipad アプリ「色彩ヘルパー」を用いた授業-(2)

大阪府下中学1年生 28人 5~4人グループ (各班2台×6グループ=12台使用)

### 1. ポスターカラー着彩「テーマを決めて色をぬってみよう」平塗り

活動—20個の大きささまざまな涙型の枠が設けられたワークシート(A4・右図)に、ポスターカラーで着彩。彩色のテーマを決めて塗る(35分)。時間内に塗ることができなかった場合は宿題(20色塗り終えた子は1人、14~10色を塗り終えた子が4名、大多数の子は8~5色、2色のみの子が1人)

テーマ:夏、夢、果物、海、カラフルな色、湖にうつる景色…など



### 2. ipad アプリ「色彩ヘルパー」を使い色の名前(慣用色)を調べる。

「色彩ヘルパー」の説明—本アプリはipadのカメラで色を感知し、慣用色名を表示する機能があり、和色名はひらがなまたは漢字、外来色はカタカナで表記される。光のあたり方やカメラの感知の具合により色名が変化するため、移し出されたipadの画面上のいろいろな部分(赤丸で表示)を選択し、興味のある名前を見つける。(タッチパネル機能)

活動—ワークシートに塗った色をカメラで映し、調べた色の名前を余白に書く。

表2 記入された色名

和色名	外来色名
らくだ／松葉色／煤竹色／抹茶／れんが／肉桂色／黄茶／鉄色／代赭／卵色／錆浅色／萌黄色／小麦色／紺色／茶色／朽葉色	ミッドナイトブルー／サックスブルー／テラコッタ／ボトルグリーン／オールドローズ／マリンブルー／アンバー／ローアンバー／バーントアンバー

生徒の様子—読めない漢字を知りたがる、お気に入りの色名を見つける、かっこいいと思った色名を繰り返して言う、見つけた色名を友達に伝え合う、制服の色を調べる、色の塗っていない部分(白)を調べる、画面を真剣に見入る、